

新たな活動拠点施設に望む

柴 正博

現在、自然史資料を活用し、県立の自然史博物館を目指す新しい活動拠点として、県企画広報部による県立静岡南高校の校舎を改修する設計作業が進んでいます。私たちも何度か静岡南高校の校舎を県の担当者とともに視察させていただき、改修設計に関する意見交換をさせていただきました。そして、その設計の概要もできつつあります。

静岡南高校は、静岡市駿河区大谷の駿河湾を望む高台にあり、静岡大学の敷地とはその北側で隣接しています。校舎は3階建てで東側に開いた逆コの字形をしていて、東側から北東側は久能山礫層からなる山の斜面で、南側に運動場があり、西側にプールとテニスコート、北側に体育館があります。活動拠点として利用できるのは、現在のところ校舎の1階と2階の部分で、主に自然史資料（標本）の収蔵とその活用（教育・普及・展示）を目的とした活動拠点が考えられています。

今年度に活動拠点にするための改修設計を行い、来年の平成25年度に改修工事と資料の搬入を行い、平成26年4月から事業を開始します。新たな活動拠点で行う事業と運営方法については、まだ具体的にはなってはいませんが、現在の自然学習資料センターで行っている自然学習資料の登録保存事業とその活用事業が継続・発展するものと思われます。なお、近い将来にはこの新たな活動拠点を県立自然史博物館として整備することも、今年度以降の検討課題となっています。

校舎内の教室をどのような施設として利用するかという計画については、当NPOでも小委員会で検討し、以下のような概要を県企画広報部に提案しました。南側の普通教室棟は分野ごとの標本室に、北側の理科教室棟の実験室はそのまま実験室および研修室として利用し、実習室は標本室等に、特別教室棟は展示室に、西側の管理昇降棟は管理および講堂、研修、コミュニケーションホールとして利用します。展示観覧や資料搬出入のためにエレベーターを設置することと、標本の防虫のため数多くある出入口を閉鎖

し、標本室のある普通教室棟と他の棟との間にドアを設置して普通教室棟を隔離することなどの提案をしました。

私たちは常々、県立自然史博物館は県の「自然」という財産をいろいろな面から調査研究し、それらの自然史資料を収集・保管し、その成果を広く多くの県民に情報提供および普及し、県民自身もその仕事に参加できる態勢をつくるための「機関」であるべきと主張してきました。その意味では、静岡南高校の校舎は、みなさんが来られるための交通アクセスに少し難はありますが、まわりを自然に囲まれた優れた環境の中にあり、周囲に自然観察路や植物園や昆虫園、ビオトープ、鳥獣保護センターなども整備できれば、自然史資料の収蔵保管とその活用とともに、人々特に子供達が自然に親しみ、将来の後継者に育っていけるようなソフトウェアを重視した、静岡県的一大教育研究機関としての自然史博物館に発展していけるだろうと考えています。

新しい活動拠点の整備・改修のためには、ここでいう事業の目的やテーマ、そしてその運営方法、また将来の博物館構想について、本来十分に検討する必要があります。しかし、現時点においては、設備改修や備品整備など個々の具体的で詳細な事柄についての話を進めています。確かに改修設計のためには、校舎のどの教室をどのように利用するか、またどのように改修するか、そこにどのような備品を設置するかということは当然必要なことです。しかし、そこで活動し利用するだろう人たち、すなわち一般の利用者や私たちも含めたボランティア、そして最もハードユーザーであり博物館活動の中心となる学芸員たちによって、今後の活動目的や運営の全体像、そして具体的な利用しやすい改修設計がなされるべきと考えます。その意味で、できるだけ早く静岡県自然学習資料センターに学芸員を配置し、改修設計や改修工事に直接関わらせて、新しい活動拠点が博物館として機能できるように今後も要望していきたいと思えます。そのためにも県にはできるだけ早く「基本構想」をうち立てていただきたいと考えています。